

## 子どもに気持ちを伝える3つのポイント

新年おめでとうございます。昨年は開院 20 周年を迎えました。今年は新たな気持ちで 25 周年、30 周年を目指して一步一步着実に歩いていく所存です。そして、今回「たま通信」は 100 号となりました。平成 17 年 10 月に創刊号を発行してから 8 年で到達です。毎月、毎年似たようなテーマではありませんが、少しでも皆様のお役に立てるよう最新の情報を発信していきますので、ご愛読よろしく申し上げます。

### ① 質問形で話す

教育現場では「先生の話をちゃんと聞きなさい!」と命令形を使う事が少なくありませんが、テーマパークでは強制や禁止の言葉遣いはダメとされています。こちらの話を聞いてほしい時には、「話を聞きなさい!」ではなく、「今からお話してもいいですか?」と質問形にするのです。子ども達は「どんなお話が始まるのかな?」と質問に対する関心と注意を向けてくるようです。

### ② 肯定的な言い方をする

子どもに薬を飲んでもらいたい時、親は「この薬を飲まなきゃダメ! 病気が治らないよ!」と否定的な言い方をしてしまいます。しかし「このお薬飲んだら、きっと気分が良くなって、病気も早く良くなるよね」と肯定的な言い方にするとより効果的になるようです。

### ③ 子どもの自覚を促すような言い方をする

小児科の待合室には絵本や玩具がありますが、遊びに夢中になって診察の順番になっても応じてくれない子がいます。上手く遊びを切り上げさせるのは、「はい。ここは保育園じゃないの。もう時間ですよ!」ではなく、「病院は何をするところだったかな?」と子どもの自覚を促すように語りかけると効果的な様です。

「ディズニーとキッザニアに学ぶ子どもがやる気になる育て方」(我孫子薫・数住伸一著 総合法令出版) より。

### 子どもの話を上手に引き出す方法とは、

1. 子どもが話しかけてきた時には、何かをしながら耳だけを傾けるという態度はダメ。きちんと向き合って真剣に聞いてあげる。
2. 話の途中で「なるほど」「そうなんだ」と相槌を打つ。
3. 子どもの話を整理して、具体的に言葉にして返してやる。「朝ご飯食べたからお腹が痛くなったんだね」など。

「子どもが聴いてくれる話し方と子どもが話してくれる聴き方」(アデル・フェイバキこ書房) より。

子どもにこちらの要求を上手に伝えたり、話をうまく引き出すことは大変な作業ですが、チョットしたコツがありそうですね。

(アステラス HP から) (たまなは)